

令和 3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493700130	事業の開始年月日	平成21年12月1日
		指定年月日	平成21年12月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜市ヶ尾		
所在地	(〒225-0025) 神奈川県横浜市青葉区鉄町1224		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2ユニット
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年11月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の予防対策として、昨年度に引き続き、オレンジカフェなどの地域の方との交流ができなくなっていますが、すすき野地域ケアプラザを通じて、間接的に「あざみ野認知症プロジェクト」などに参加させていただいています。また、ご家族様が面会ができず、不安になってしまうことのないようにブログを、週2回のペースで、ご入居者様のいきいきとした姿を見て安心していただけるように、写真を中心に発信しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年11月4日	評価機関 評価決定日	令和3年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇身体拘束をしないケアと虐待防止への取り組み
 「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、「身体拘束廃止委員会」と「虐待防止委員会」を設置して、それぞれ2か月ごとに会議を開催している。さらに、両委員会の結果を基に職員研修を年2回開催し、職員に周知徹底するとともに「身体拘束チェックシート」で検討して、身体拘束をしないケアと虐待防止に努めている。
 ◇事業所内のセキュリティ強化と個人情報保護の職員への周知
 事業所内に緊急通報システムと防犯カメラを設置し、もしもの時は近隣の警備保障会社から、ガードマンが駆けつけるシステムで、利用者や職員の安心につなげている。また、毎月本部より送付される研修資料により、職員は「個人情報の取り扱い」について十分に理解し、遵守している。

【事業所が工夫している点】
 ◇コロナ禍の原状、家族は、利用者との面会ができないため、週2回写真中心のブログを発信して、家族が不安や心配しないように配慮している。
 ◇「誤薬は直接利用者の命に関わる」との意識を職員間で共有し、服薬3秒ルール「3秒数えて薬を手に取り、3秒数えて利用者の顔と名前を確認・開封し、3秒数えて投薬する」を徹底しており、このトリプルチェックの結果「誤薬無事故連続日数」を更新中である。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	みんなの家・横浜市ヶ尾
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここで聴き ここで話し 笑顔で共に歩む」という理念を掲げて、入居者様に寄り添ったサービスを心掛けています。	・事業所理念は、4年前職員全員で「ここで聴き ここで話し 笑顔とともに歩む」と決め、玄関と事務所に掲げ実践している。 ・利用者が、日々穏やかに笑顔で暮らしているかを、常に意識して理念に対する思いを深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェや地域の行事は中止となっていますが、近隣の方が畑で育てた花などを持って来てくれます。	・コロナ禍前は「川の清掃、例大祭、どんど焼き」などに参加し、オレンジカフェを開催していた。 ・コロナ禍の現在は、地域住民から花や野菜の差し入れがあるほか、隣接の農園で作業中の住民と施設の窓越しに会話を楽しむ利用者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、現在は中止していますが、オレンジカフェを通じて理解や支援の方法について発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、会議は中止になっていますが「メンバー報告書」を送り、意見を求めています。	・コロナ禍以前、運営推進会議は、2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、町会長、民生委員、家族代表が参加して、活動報告に関する意見交換および地域の催事などの情報を得ていた。現在は、関係者に報告書を送り意見を求めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の予防策として、中止していますが、例年は、区主催の認知症会議や感染症研修に参加しています。運営推進報告書は、区に郵送しています。	・グループホーム連絡会に加入して、情報交換を行っている。 ・コロナ禍で中止となっているが、例年は、区主催の認知症会議や感染症の研修に参加し、区の担当職員の協力関係が得られるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月ごとに「身体拘束廃止委員会」と、年2回の職員研修を行い、身体拘束についての理解を深めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、2か月ごとに「身体拘束廃止委員会」を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・職員は、入職時に身体拘束をしないケアの研修を受け、その後も年2回の職員研修を行い、身体拘束廃止への理解を深めている。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月ごとに「虐待防止委員会」を開催し、虐待防止について学び、常に意識して業務にあたるよう努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月ごとの虐待防止委員会で、「高齢者虐待防止法」を学び、理解し遵守する取り組みをしている。 ・利用者が不快に思うことや不適切な言動がないよう、職員同士が注意しあい虐待防止に努めている。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などに参加し、会議等で情報を得て、職員間で共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定がある場合は、職員全員に説明し、理解を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の日頃の要望や、ご家族様の意見等は職員全員で共有し、全体会議などで運営に反映するための話し合いを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意向は、普段のケアや会話からくみ取り、介護計画に反映している。家族との信頼関係を重視し、面会時や電話連絡の際に積極的に意見を聞いている。得られた意見は連絡ノートに記載し、職員全体で共有して会議で検討している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議、フロア会議での意見交換や、年に2度の個別面談、日頃の会話からも意見を聴き運営に反映させています。	・日常業務や会話の中で職員の意見や要望を聞いている。提案の多くはケアの改善案で、全体会議やフロア会議で検討し運営に反映している。 ・年に2回、職員の個別面談では、日頃言えないことの相談にのり、働きやすい環境に取り組んでいる。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃の従業員の功績などを月1度行われる事業所長会議や担当マネージャーに報告し、より良い職場環境整備に反映させています。	・職員は年1回、夜勤者は年に2回、健康診断を行い、心身の健康状態を把握している。 ・管理者は、職員の日々の努力や実績を把握し、上長に報告して職員がやりがいをもって働けるよう努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が開催される際には、職員に声掛けし、参加を促しています。	・管理者は、新人職員にOJTにてケアの技術や利用者への接し方を指導している。 ・また、資格取得支援制度を活用し、職員の資格取得に力を入れている。研修参加職員の報告書を全職員が共有し、職員全体の学びの場につなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を通じて同業者と交流しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が生活に馴染めるよう、職員が積極的に話しかけて安心していただけるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心していただけるように、十分な話し合いを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様、ご家族様の要望に沿ったケアプランを作成し、要望がかなえられる様心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がいきいきと暮らせるように一緒に作業したり、会話をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と話し合い、関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、面会を中止しているが、電話や手紙などでやり取りしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前は、家族や知人の面会があり、家族の協力で墓参りや行きつけの美容院に出かけていた。 ・コロナ禍の現在は、面会や外出を自粛しており、家族との電話の取り次ぎや携帯電話のかけ方、手紙の作成の支援をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	安全を見極めた上で、一緒にお手伝いやレクリエーションを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽にお電話いただけるよう退去時にお話ししています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを日々の何気ない会話のなかから聞き取れるよう努めています。言葉が発せない方については表情やしぐさなどから読み取っています。	・利用者の日頃の行動や会話・表情・仕草から思いを把握している。入浴や散歩時のゆったりした時間帯に思いを引き出すように努めている。把握した内容は、申し送りノートに記載して、会議で話し合い職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報だけでなく、日々の会話の中から、生活歴やなじみの暮らし方を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや表情、会話、しぐさなどから心身状態を把握し、変化に対応出来る様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランが実態に合っているかを常に確認し、ご本人、ご家族、医師、看護師などの助言を受けています。職員の意見を取り入れ、現状に合った介護計画を作成しています。	・介護計画は、モニタリングを行い課題とケアのあり方を利用者、家族、介護職員に医療関係者の意見を入れて作成している。 ・計画は長期6か月、短期3か月で作成し、状態に変化があった時には見直して、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランが反映されているかは、ナンバリングすることで確認しています。変化が見られる時は職員同士で話し合い、介護計画や自薦方法の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で提供できるサービスの他に、関連事業所のサービスを参考に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防対策として、現在は行っていませんが、地域ボランティアの方に施設行事などに参加していただいています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医の他に、ご家族が希望される場合は、外部のかかりつけ医に受診していただき、情報は提供してもらっています。	・利用者の同意を得、事業所協力医（内科）をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。歯科は月2回、看護師は週1回訪問している。 ・神経内科、整形外科への通院は家族が付き添い、受診結果の報告を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師に情報を提供し、往診時に適切な医療を受けられるよう相談、助言をしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し、病院に提供しています。病院と電話で情報交換、相談等を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の事業所方針を説明しています。また、重度化の段階ごとに、職員、往診医、ご家族と方針を話し合っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合の指針を、本人の入居時に説明している。 ・重度化した場合や看取りをする場合には、その都度会議を開いて家族、協力医と話し合っている。看取りの研修をし、経験の浅い職員にも安心できるように支援している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを備えており、職員が迅速に対応できるよう訓練しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と年1回の水害訓練を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の夜間想定を含む避難訓練と水害訓練を行っている。消防署から火元に対してどこに逃げればいいのかの助言を得ている。小学校開催の消防訓練に職員が参加している。 ・保存食等の備蓄は、1階・2階の両方にあり、リストで管理している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意を払うほかに、表情、態度にも気を配り、プライバシーを守る介護を心掛けています。	<ul style="list-style-type: none"> ・人格を尊重した言葉かけについては接遇マナー研修で、個人情報保護については毎月本部から届く資料で、職員は学んでいる。 ・トイレのドアは閉める、他の人にわからないように処置するなど、利用者の誇りを尊重している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかけやすい雰囲気や環境を作るように心がけています。自己決定ができるよう選択しやすい環境を造っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールで決められた事柄以外はご自分のペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選びやすい様にタンスに種類別に収納しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや盛り付けなどをご入居者さまにさせていただいています。	<ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌いがあったり食べにくい場合は、調理方法を変える、おやつを増やすなどの工夫をしている。 ・数名の利用者が、盛り付けや食器拭きを手伝っている。職員も介助しながら、利用者と一緒に食事をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録し、必要量摂取できるようにしています。容器や補助具を利用し、摂取しやすい様支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士指導のもと口腔ケアのお手伝いをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しています。適時にトイレ誘導を行い、失禁を防いでいます。	・寝たきりの利用者、自立している利用者以外はリハビリパンツを使用している。排泄チェック表や摂取した水分量を参考に、時間をみてトイレに誘導している。 ・パット等が他の人にわからないような配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分補給で排便を促すように工夫しています。排便チェック表で把握し、お薬の調整等を医師に相談しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	身体の状態を確認し、安全な入浴を心掛けています。予定は組んでいますが、ご本人の気分に合わせて入浴時間や日程の調整をしています。	・1階に機械浴の設備があり、安全に入浴できるよう支援している。 ・1対1でゆっくり話ができるのを楽しみにしている利用者もいれば、入浴を嫌がる利用者もいる。週2回の入浴を楽しめるよう、入浴剤や声かけ等で工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はご自分の好きな時間にとりて頂いています。介護度の高い方については職員が時間配分しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が薬の説明を行いアドバイスを受けています。職員もご入居者様の状態を提供し、相互に確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いはその方がやりたいこと、得意なことをして頂いています。歌を歌ったり、編み物をしたり、ご自身が好きなことをしてもらっています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と散歩や外気浴を楽しんでいます。コロナ禍で、家族が同行するお墓参りや外食などはできていません。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で散歩に行く機会が減少している。 ・玄関前のベンチに座ったり、玄関アプローチの花々や利用者と一緒に門の横に植えたコスモスを鑑賞したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠出は難しくても、川沿いの散歩など、できるだけ戸外の空気に触れることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想による入居者様同士の金銭トラブル防止の為、金銭の所持は控えていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りなど、職員が御手伝いして行っています。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフローアーには季節の掲示物を飾ったりして楽しい雰囲気になるようにしています。	・共用フローアーは利用者が快適に過ごせるように、温湿度計を参考に冷暖房、加湿器を使い、換気をしている。 ・清掃は、職員が担当や時間を決めて行い、利用者がモップがけを手伝うこともある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてくつろげる場所を提供しています。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や飾り物、テレビ、仏壇、ぬいぐるみなどを持ち込んでおり、リラックスできるように配置されています。	・備え付けのカーテン、クローゼット、タンス、ベッド、布団の他、危険のない限り仏壇、ぬいぐるみ等、本人の好みの物を持ち込んでいる。 ・週1回の清掃や衣替えは職員も手伝い、居心地のよい居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に転倒防止の緩衝材を敷いたりフローアーには時計やカレンダーなど季節や時間がわかるようしています。			

事業所名	みんなの家・横浜市ヶ尾
ユニット名	2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「こころで聴き こころで話し 笑顔で共に歩む」という理念を掲げて入居者様に寄り添ったサービスを心掛けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェや地域の行事は中止となっていますが、近隣の方が畑で育てた花などを持って来てくれます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、現在は中止していますが、オレンジカフェを通じて理解や支援の方法について発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、会議は中止になっていますがメンバー報告書を送り、意見を求めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症予防対策として、中止になっていますが、例年は区主催の認知症会議や感染症研修に参加しています。運営推進報告書を区に郵送しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月ごとに「身体拘束廃止委員会」と年2回の職員研修を行い、身体拘束についての理解を深めています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月ごとに「虐待防止委員会」を行い、虐待防止について学び、常に意識して業務にあたるよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などに参加し、会議等で情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定がある場合は、説明し、理解を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の日頃の要望や、ご家族様の意見等は職員全員で共有し、全体会議などで運営に反映するための話し合いを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議、フロア会議での意見交換や、年に2度の個別面談、日頃の会話からも意見を聴き反映させています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃の従業員の功績などを月1度行われる事業所長会議や担当マネージャーに報告し、より良い職場環境整備に反映させています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が開催される際には、職員に声掛けし参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を通じて同業者と交流しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が生活に馴染めるよう、職員が積極的に話しかけて安心していただけるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心して頂けるように十分な話し合いを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様、ご家族様の要望に沿ったケアプランを作成し、要望がかなえられる様心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がいきいきと暮らせるように一緒に作業したり、会話をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と話し合い、関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、面会を中止しているが、電話や手紙などでやり取りしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	安全を見極めた上で、一緒にお手伝いやレクリエーションを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽にお電話いただけるよう退去時にお話ししています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを日々の何気ない会話のなかから聞き取れるよう努めています。言葉が発せない方については表情やしぐさなどから読み取っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報だけでなく、日々の会話の中から、生活歴やなじみの暮らし方を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや表情、会話、しぐさなどから心身状態を把握し、変化に対応出来る様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランが実態に合っているかを常に確認し、ご本人、ご家族、医師、看護師などの助言を受けています。職員の意見を取り入れ、現状に合った介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランが反映されているかナンバリングすることで確認しています。変化が見られる時は職員同士で話し合い、介護計画や自薦方法の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で提供できるサービスの他に、関連事業所のサービスを参考に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防対策として、現在は行っていませんが、地域ボランティアの方に施設行事などに参加して頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医の他に、ご家族が希望される場合は、外部のかかりつけ医に受診して頂き、情報は提供して頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師に情報を提供し、往診時に適切な医療を受けられるよう相談、助言をしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し、病院に提供しています。病院と電話で情報交換、相談等を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の事業所方針を説明しています。また、重度化の段階ごとに、職員、往診医、ご家族と方針を話し合っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを備えており、職員が迅速に対応できるよう訓練しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と年1回の水害訓練を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意を払うほか、表情、態度にも気を配り、プライバシーを守る介護を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかけやすい雰囲気や環境を作るように心がけています。自己決定ができるよう選択しやすい環境を造っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールで決められた事柄以外はお自分のペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選びやすい様にタンスに種類別に収納しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや盛り付けなどをご入居者さまにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録し、必要量摂取できるようにしています。容器や補助具を利用し、摂取しやすい様支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士指導のもと口腔ケアのお手伝いをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しています。適時にトイレ誘導を行い、失禁を防いでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分補給で排便を促すように工夫しています。排便チェック表で把握し、お薬の調整等を医師に相談しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	身体の状態を確認し、安全な入浴を心掛けています。予定は組んでいますが、ご本人の気分に合わせて入浴時間や日程の調整をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はご自分の好きな時間にとりて頂いています。介護度の高い方については職員が時間配分しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が薬の説明を行いアドバイスを受けています。職員もご入居者様の状態を提供し、相互に確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いはその方がやりたいこと、得意なことをして頂いています。歌を歌ったり、編み物をしたり、ご自身が好きなことをしてもらっています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と散歩や外気浴を楽しんでいます。コロナ禍で、家族が同行するお墓参りや外食などはできていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想による入居者様同士の金銭トラブル防止の為、金銭の所持は控えていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りなど、職員が、お手伝いして行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフローには季節の掲示物を飾ったりして楽しい雰囲気になるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてくつろげる場所を提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や飾り物、テレビ、仏壇、ぬいぐるみなどを持ち込んでおり、リラックスできるように配置されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に転倒防止の緩衝材を敷いたりフローには時計やカレンダーなど季節や時間がわかるようになっています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 みんなの家・横浜市ヶ尾

作成日 令和 3年11月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	介護に時間を取られてしまい、散歩に出掛ける時間が十分に取れない。	散歩支援の強化	天気の良い日は職員同志で、散歩の時間を捻出できるよう業務を調整し、散歩の時間を設けられようにする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。